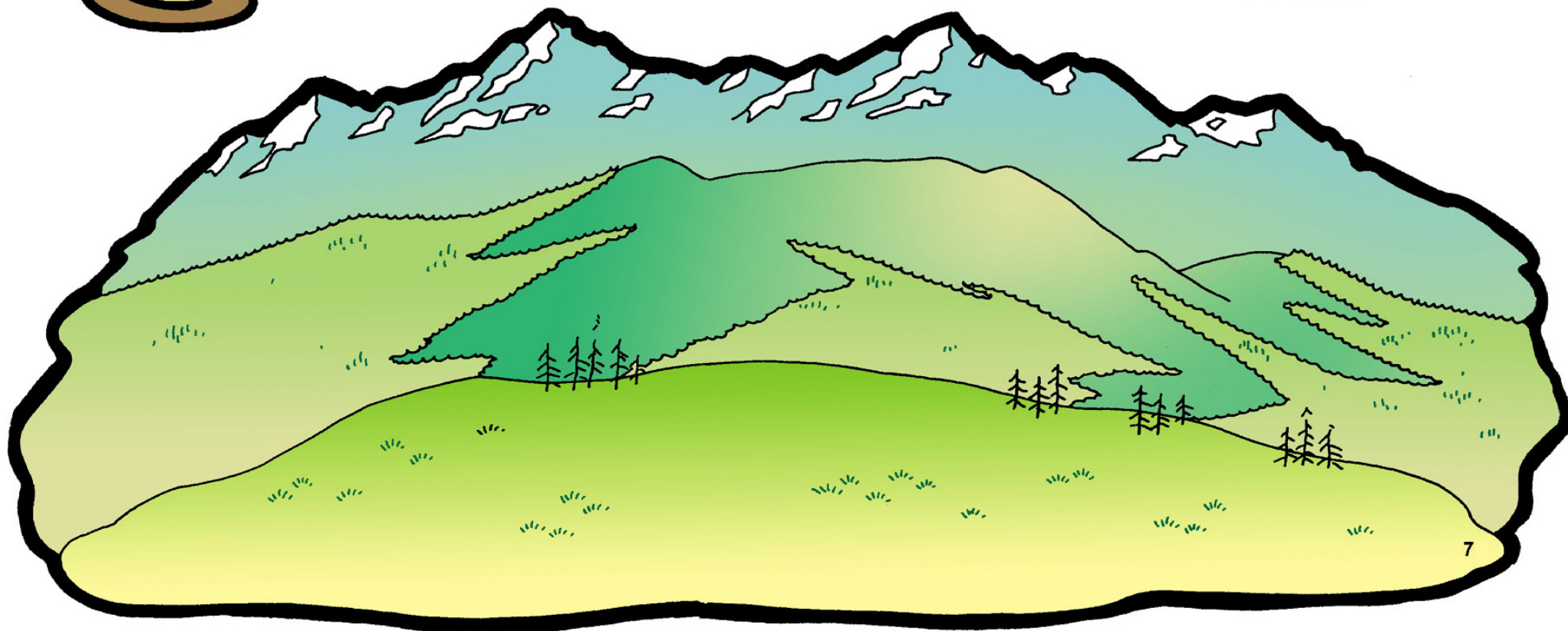


おうじ 王子と ふしぎな ちから 力!

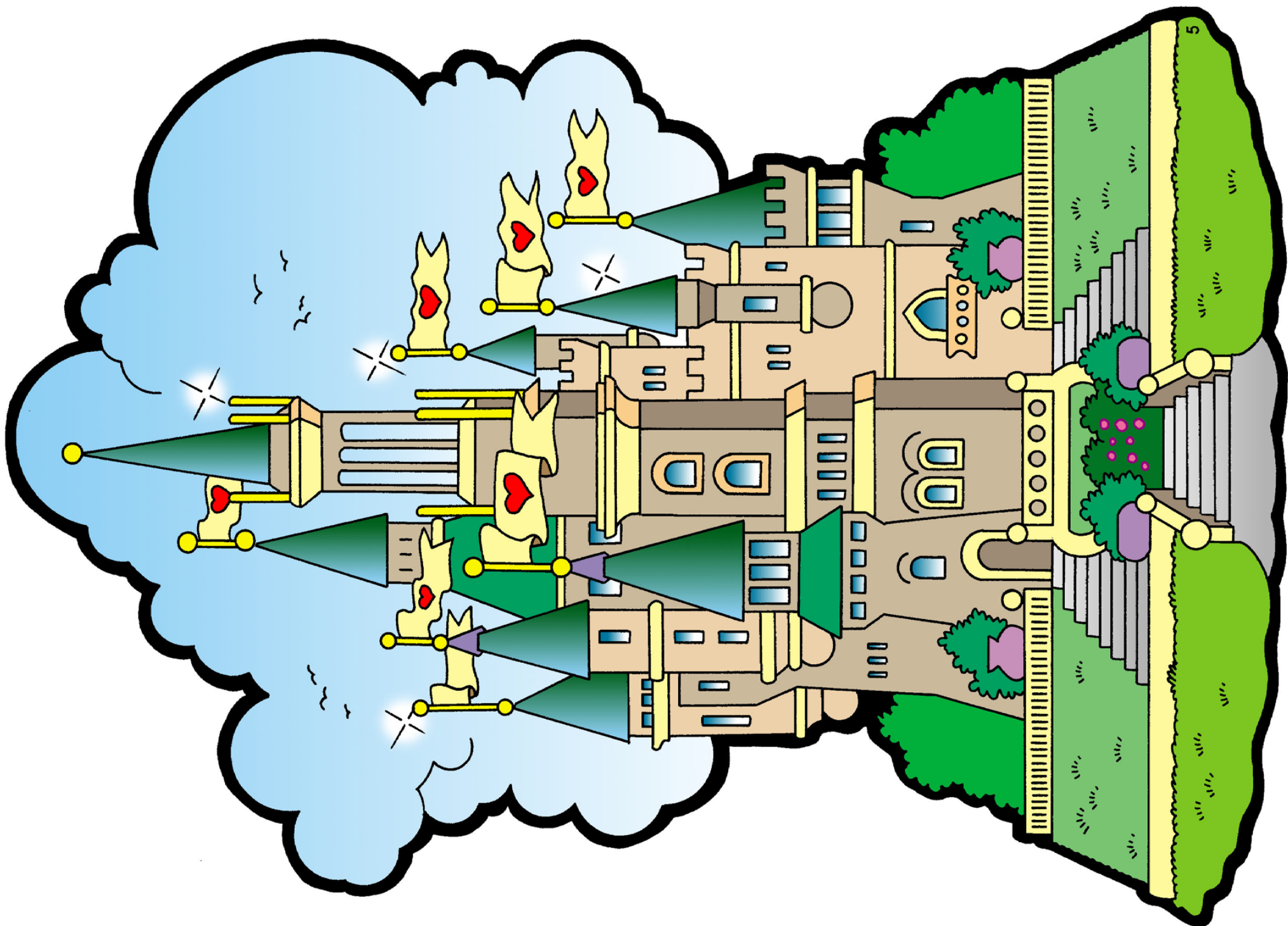
1



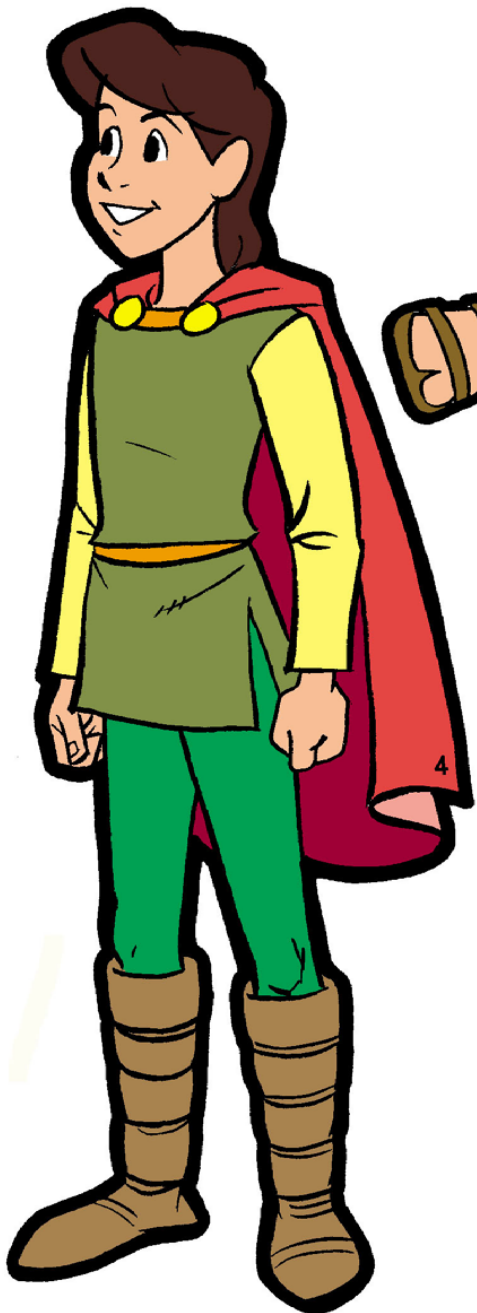
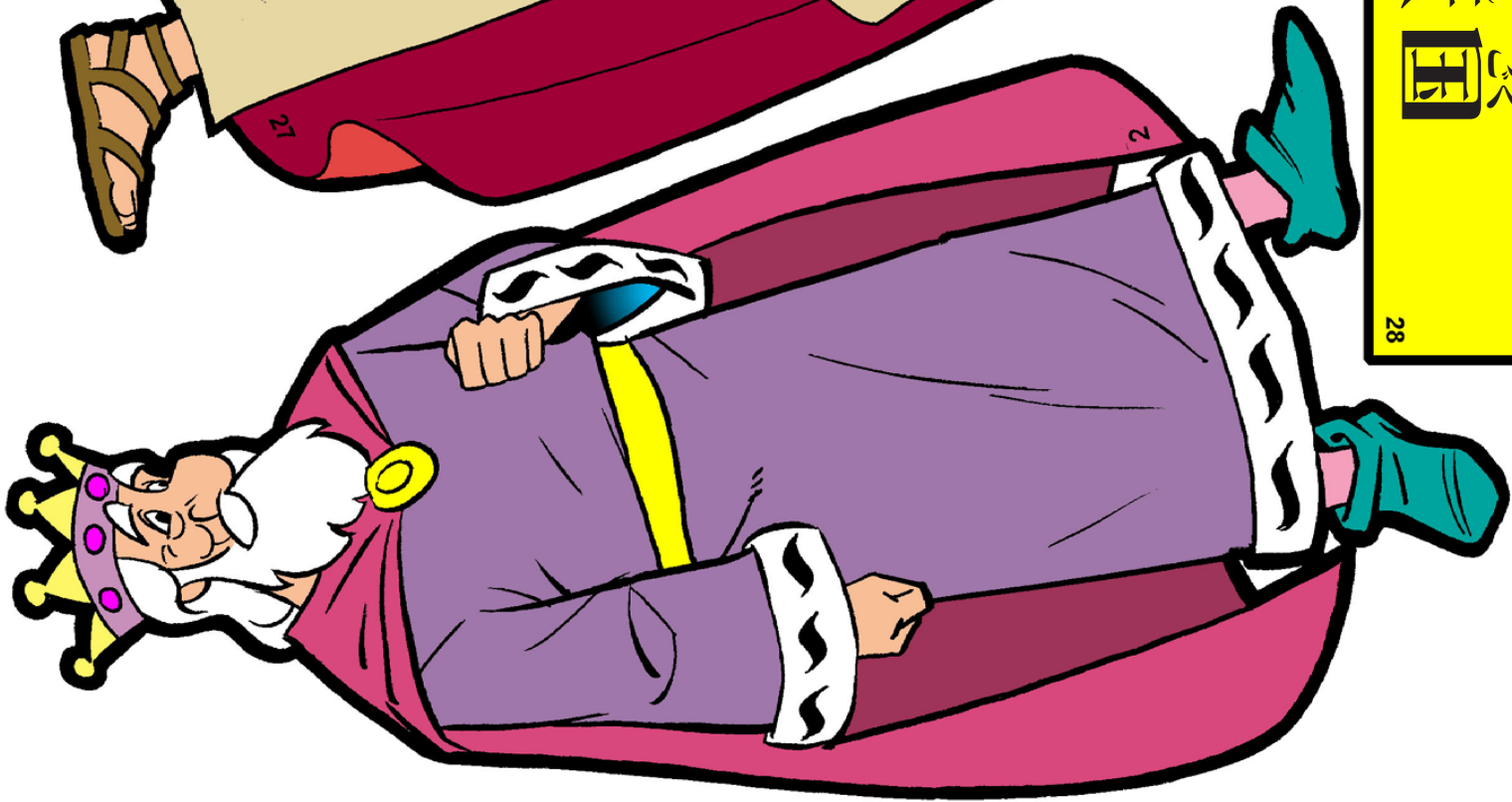
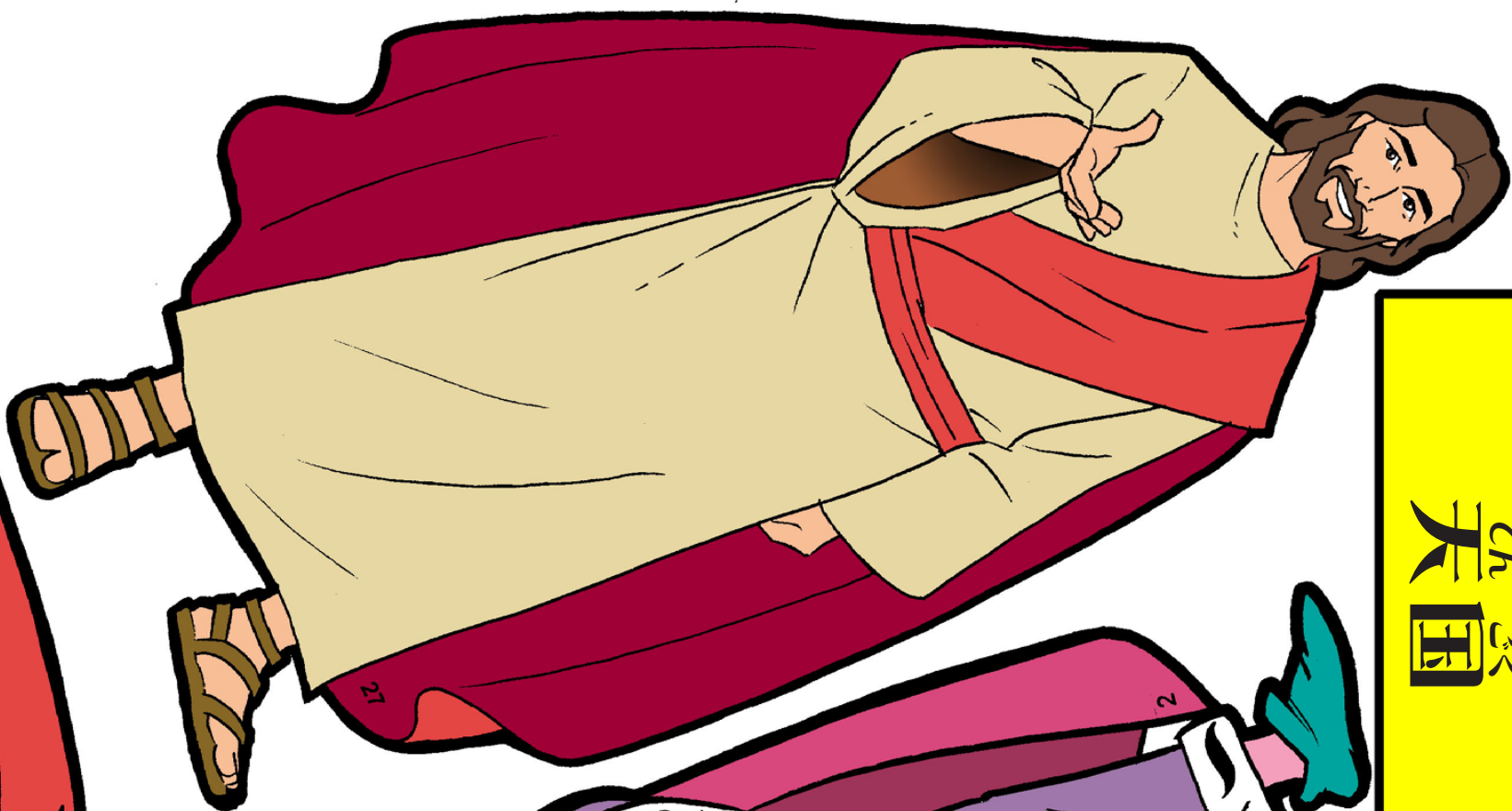
7

おうじ
王子とふしぎな力ーフランネルグラフ

この フランネルグラフは、^{おうじ}「王子と ^{ちから}ふしぎな ^{はなし}力」のお話を ^{つか}するのに 使います。その お話は ^{はなし}こちら

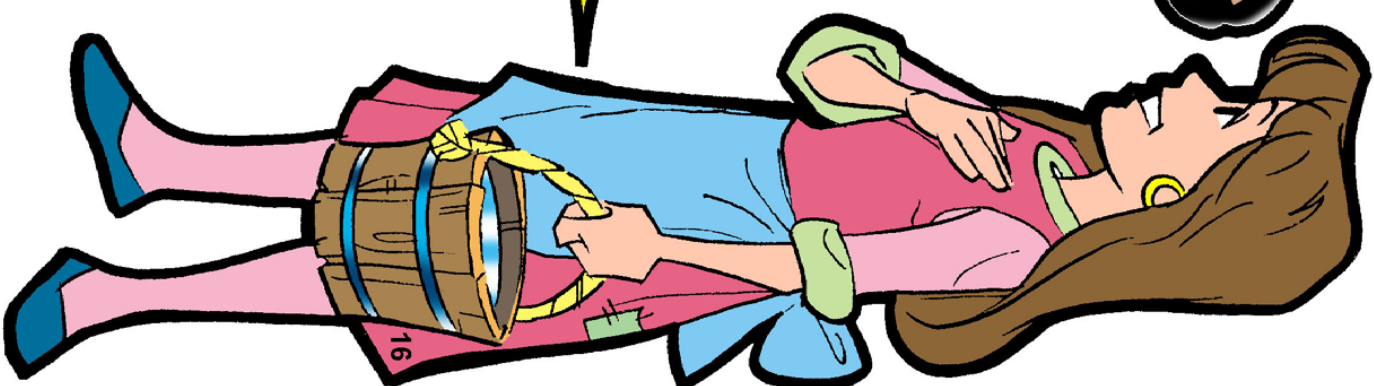
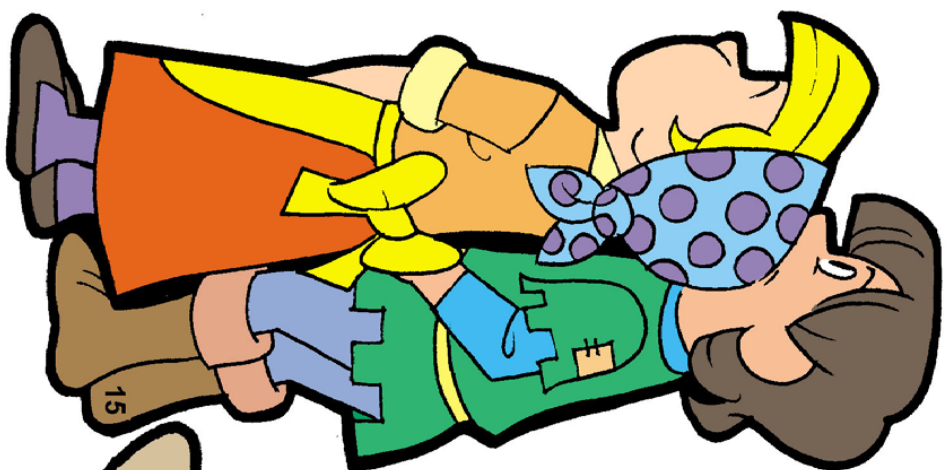


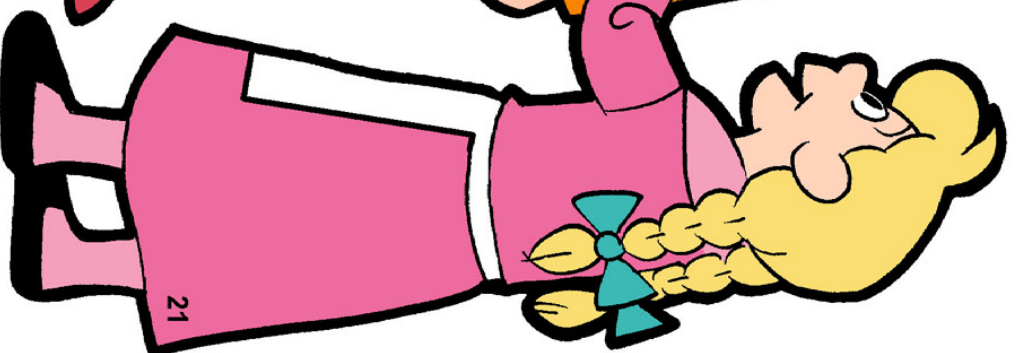
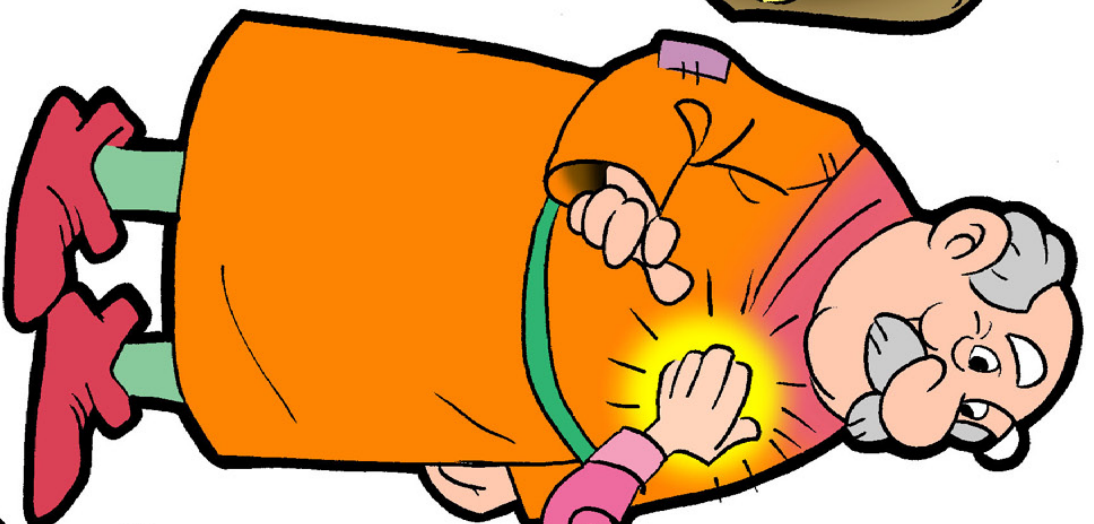
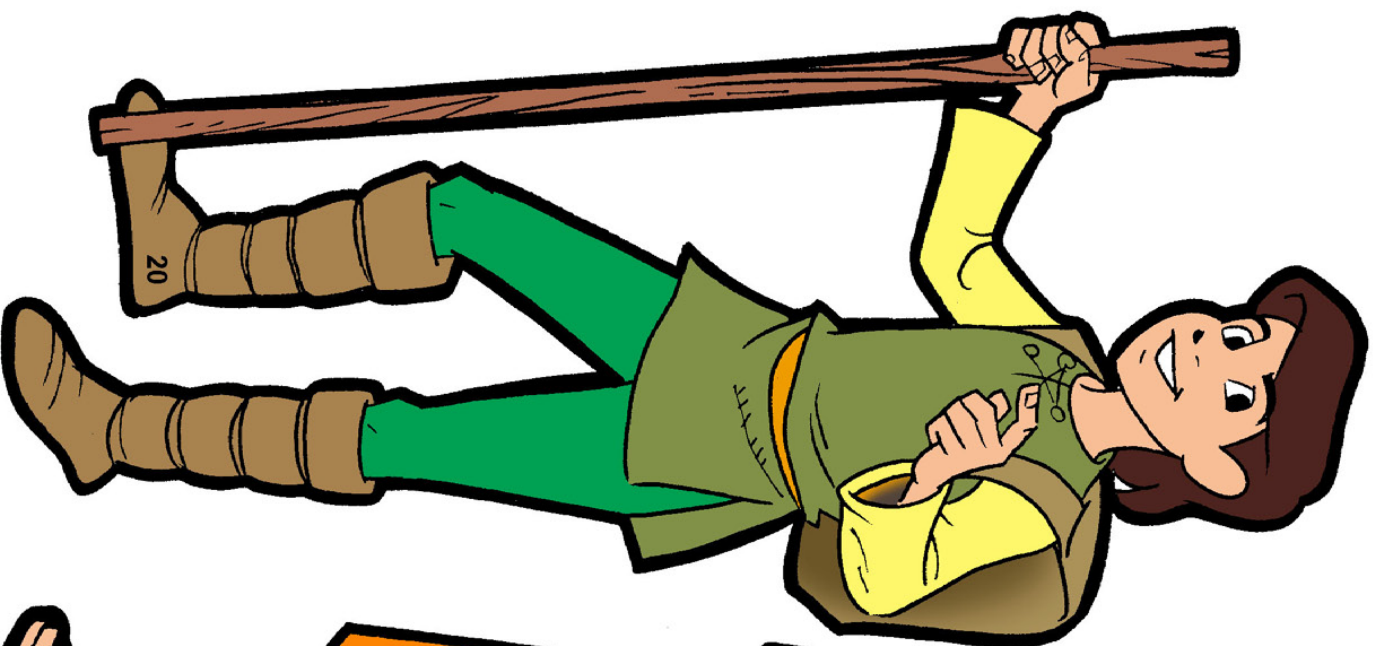


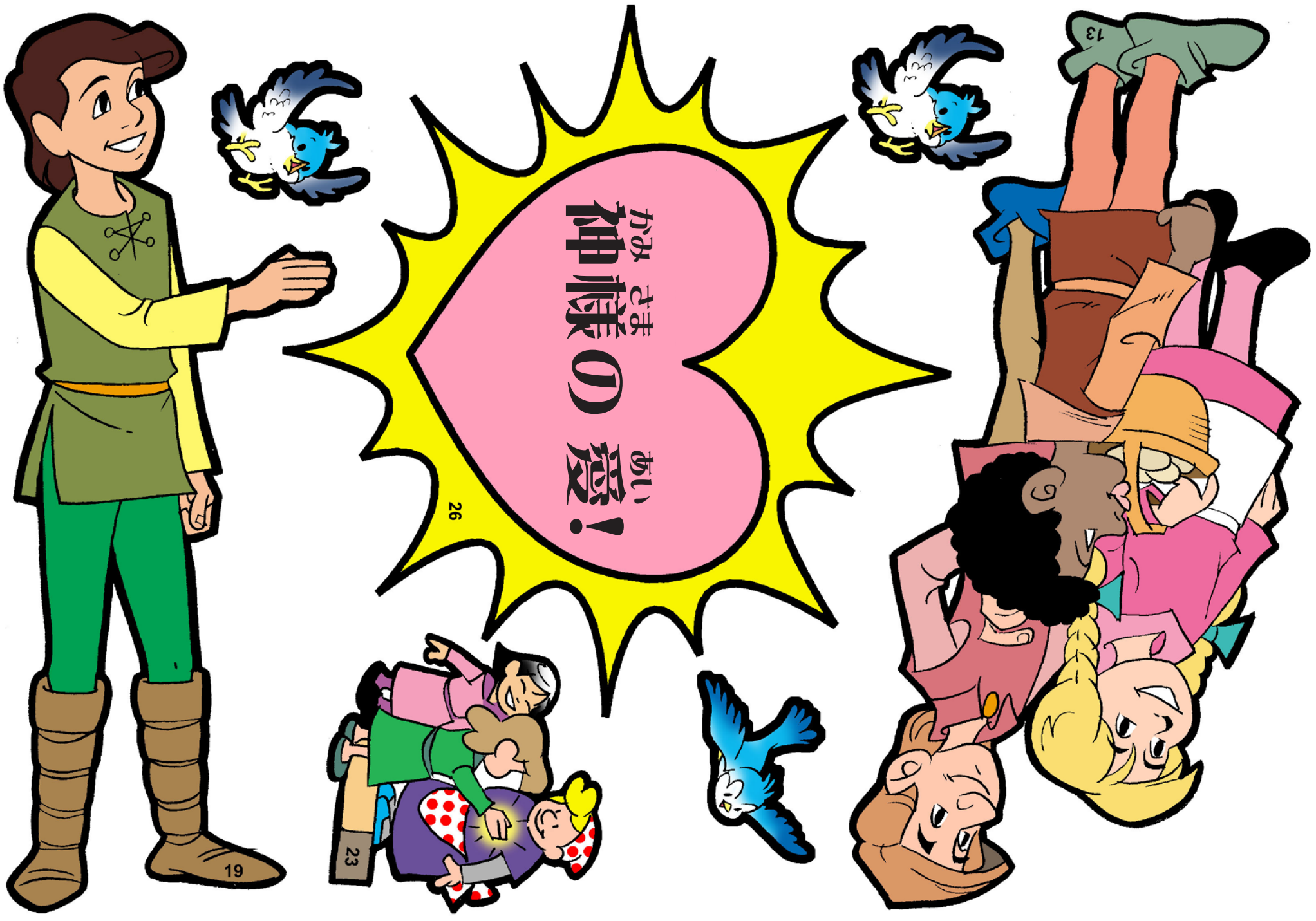












かみ
さま
神様の愛!
あい

19

23

26

13



王子と ふしぎな カーフランネルグラフ

(物語のタイトル#1をボードに置く。) 昔々、遠い 遠い ある 国に、若い 王子が 住んで いました (王子#4を 追加)。王子は、父である 王様と (王様#2を 追加)、美しい お城で 幸せに 暮らしていました (お城#5と 太陽#6を 追加)。

(王様を 王子の となりに 移動する。) ある日、王様が 王子を 呼んで 言いました。
「おまえに してもらいたい、とても 大切な 任務が あるのだが。」

「山の 向こうにある 村に 行ってほしいのだ。(山#7を 追加) そして、そこの 村人たちに、 われわれが この 国で 満ちあふれるほどに 持っている、この 愛と 喜びについて、話してやって ほしい。おまえが いなくなると、わしは 非常に さびしくなるし、おまえが いなくなると 考えるだけで 悲しくは なるが、おまえが 任務を 終えて 帰ってくるまでの ことだ。われわれが 村人たちの ことを 気づかっている ことを 伝えるには、それしか 方法が ないのではな。」

初めの うちは、王子も、愛する 父の そばを はなれ、平和に 満ちた、この 上もなく 幸せな 国から 出て行くことを 考えてみるだけで、たとえ それが しばらくの 間だけだとしても、 悲しくなって しまいました。けれども、王様を 喜ばせたいとも 思いました。王様は 約束して 言いました。大勢の 人たちを 助け、また たくさんの 新しい 友だちが できるのだから、 もどってくる 時には、今までよりも、はるかに 幸せに なるだろうと。

しばらく 考えてから、王子は 父に、その 任務を 行うと 言いました。

(王様#2と 王子#4を 取り外して、代わりに 王様と 王子#8を 置く。) 王子が 国を 出る とき、王様は 王子の 胸に 手を 当てて 言いました。「おまえに、人々の 心 を 変える ふしぎな 力を 授けよう。みんなも、われわれが ここで 持っている 愛を 授かって、愛に 満ちた 暮らしが できるようにな。そうすれば、人々は もっと 幸せに なるじやろう。」

「ありがとう、お父さん。みんなが、ぼくたちみたいに 幸せな 暮らしが できるように お手伝いできるのが 楽しみです！」と、王子が 言いました。

(すべてのピースを 取り外す。)

(王子#9と 村#10を 置く。) 何日も 何日も 旅した 後、王子は やっと、山の 向こうの 村に 着きました。

とまれる 場所が 見つかると、王子は 村人たちが どんなふうに 暮らしているかを 見に出かけ ました。草地になった 公園に 来ると、子どもたちが 遊んでいました。(村#10を 取り外して、 子ども 子供たち#11を 置く。) 王子が 辺りで 見かけない 顔だと 気づいて、何人かの 子どもたちが はな 話しかけてきました。まもなく、王子は 子どもたちに 加わって、いっしょに 遊ぶまでに なり ました。(すべてのピースを 取り外す。)

(王子#12と ピース#13-17を 置く。) しばらく すると、日が 地平線の 向こうに しずみ始め、 遊び時間も 終わりました。新しい 友だちは 王子に、いっしょに 遊べて すごく 楽しかった、 また 遊んでね、と 言いました。王子は、うんと 返事を しました。それから というもの、 王子は 毎日 午後になると 公園へ 行って、新しい 友だちと いっしょに 遊ぶようになり ました。

王子は 友だちに、お父さんの 話や、自分の 住んでいる 国にある お城の 話を したり しました。お父さんが 国民を とても 深く 愛していて 親切な こと、お父さんが 人々の めんどうを 非常に よく 見てあげているので、王国には だれも 貧しい 人がいない ことなどを 話しました。王子は、会った 子どもたちの 一人一人が みんな、自分も 仲間だと 感じられる ように、気を 配りました。だれかが ケガをした 時には、立ち止まって その 子を 元気づけて あげました。すると、その 子は すぐに 立ち直るのです。

村中を めぐり歩きながら、王子は 会う 人 みんなに 対して、同じように やさしく、また 親切に しました。たとえ、王子に 不親切な 人が いてもです。王子は たびたび、こまっている 人を 助けていました。

(ピース#17を 取り外して #18を 入れ替える。) ある日の ことです。王子が 子どもたちに、 お父さんや 自分の 国についての 話を していたら、何人かの 子どもたちが あざ笑って 言い ました。「君の 話は あまりにも 良すぎて、信じられないな。そんなに すごい 場所が あるとか、 君のお父さんが 国民の めんどうを よく みてくれるなんて、あり得ないよ。」

すると、ほかの 子どもたちが 言いました。「だけど、王子は ぼくたちにも、会う 人 みんな にも、とっても 親切だよ。王子が 病気の 人に 手を ふれたら 元気になったのも 見たしね。 王子が 言ってる ことは、本当だよ！」

「ぼくたちは、君を 信じるよ！」 子どもたちが 王子に 言いました。「君は いつだって 明るくて 陽気で、ぼくたちは 前よりも ずっと ずっと 幸せだもの。もっと 話を 聞かせてよ。」

(王子#12を取り外して、代わりに王子#19を置く。)王子は、自分を信じてくれた友だち一人一人の胸に手を置いて、言いました。「お父さんが、ふしぎな力をくれてね。その力で、君たちの暮らしを、もっと大きな喜びと愛でいっぱいにするんだ。そのおくり物を今、君たちにもあげるね。」

王子が子どもたち一人一人の胸に手を当てていくと、子どもたちの心は喜びと愛で満ちあふれました。そして、この新しい友だちがしてくれたように、自分たちも、ほかの人たちを愛し、助け、みんなに親切にしてあげたくなりました。また、このおくり物を、自分の知っている人たちにもあげたくなりました。

「ぼくたち、君を村の人たちに紹介するから、この素晴らしいおくり物を、その人たちにもあげてくれないかな。」と、一人の子が王子に言いました。

(王子#19を取り外して、代わりに王子#20を置く。)[王子は、もうすぐお父さんの所に帰らなきゃいけないんだ。だけど、君たちがほかの人たちにもこのおくり物を分けてあげたいと願っているから、お父さんがぼくにくれたのと同じこのふしぎな力を、君たちにもあげたよ。このおくり物は、おたがい同士や、会うすべての人たちに對して、やさしく親切になるのを助けてくれるからね。だから、君たちも、ほかの人たちの心や暮らしをより良くするお手伝いができるよ。]

いよいよ若い王子がお城にもどる時になると、親しい友だちにこう言いました。「出て行って、会うすべての人に、お父さんやぼくのこと、それに、ぼくたちの素晴らしい国のことを伝えてほしい!君たちの言うことを信じる人たちには、その人たちの胸に手を置いて、ぼくが君たちにあげた、この力を使うといい。そうすれば、その人たちの暮らしも愛でいっぱいになって、もっと幸せで満ち足りたものになるよ。」

王子が去ると(王様と王子#8、それにお城#5を置く)、新しい友だちは王子の任務を引きつぎ、王様や王子のこと、それに彼らの素晴らしい国について、ほかの人たちに伝え続けました。また、彼ら自身が感じている素晴らしい喜びについても、話しました。

(ピース#21-24を一つずつ置いていく)子どもたちは、王子がくれたふしぎな力を使って、人々の暮らしが愛と喜びの素晴らしいおくり物で満たされるお手伝いをしたのです。

(お城#5以外のすべてのピースを取り外す。)

(「ふしぎな力!」#25を置く。)そしてわたしたちも、このお話に書かれているような、素晴らしいふしぎなおくり物を受け取ることができるのですよ。2,000年以上も前に、神様は、ご自身の息子であるイエス様をこの地上に送り出されました。神様がわたしたちに對して

持つておられる素晴らしい愛を、わたしたちも知ることができるようにです。(「神様の愛」#26を置く。)イエス様にとって、父のそばをはなれるのはつらいことだったけれど、わたしたちが、イエス様を救い主として信じ受け入れる時に受け取れる素晴らしい救いのおくり物について知ることは、とても大切だと知っておられました。

神様の^{かみさま}み^{たま}霊は、わたしたちを変えてくれるふしぎな力のようです。それによって、暮らしがもっと幸せに、また豊かになります。それは、神様の愛の証しです。もし神様の救いのおくり物をもらっているなら(イエス様#27を置く)、いつか永遠に神様の天国に住めるようになることを、楽しみにできます。(「天国」#28を置く。)神様は、わたしたちを救うためにご自分の息子を送り出されるほど、わたしたちを愛しておられます!

神様がどんなに大きな愛であなたを愛しておられるかや、神様の救いのおくり物についてもっと知りたいなら、この小さなお祈りを祈ってみてくださいね。「神様、わたしにあなたの愛を下さるために、み子であるイエス様を送ってくださいましたことを信じます。わたしは、イエス様とイエス様の愛を、自分の暮らしの中に受け入れます。わたしは、永遠にあなたの天国でいっしょに暮らしたいです。どうか、わたしが今までにしてきたまちがいを、ゆるしてください。わたしを、あなたの素晴らしい愛の力で満たしてください。ほかの人たちも、あなたの愛と喜びで満たされたより良い暮らしができるように、お手伝いできますように。アメン!」

もしこのお祈りを祈ったなら、イエス様はあなたの心と人生の中に、永遠にとどまってくださいます。いつもあなたのそばにいて、絶対にあなたからはなれることはありません。そしてあなたも、神様の天国で、永遠に、愛する親友イエス様といっしょに暮らすことができるのです。

み子を信じる者は永遠の命を持つ。(口語訳聖書、ヨハネによる福音書 3:36)
わたしが来たのは、羊(イエス様を信じる人々)が命を得、またそれを豊かに持つためです。(新改訳聖書、ヨハネの福音書 10:10)

注:ほとんどのピースには、番号が付いています。鳥やネコやハートなど、番号が付いていないエキストラは、思い思いの場面で自由に使ってください。

寄稿:クリスティ・S・リンチ、マリア・フォンテンの著書の編集 絵:ゼブとディディエ・マーティン
出版:マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2015年、ファミリーインターナショナル
"The Prince & the Magical Power Flannelgraph"--Japanese
関連の読み物はこちら⇒イエス様、フランネルグラフ